



子どもたちの健やかな成長を図る体験的な活動

校長 武田 泰之

「みんな～、もう少しで頂上だよ～。頑張ろう～！」緑に囲まれた山の中に子どもたちの声が響き渡りました。

「館岩少年自然の教室」の2日目の活動は、登山から始まりました。登山の経験がない子どもが多かったのですが、険しい山道を懸命に登りながら、仲間に積極的に声をかけ励まし合い、決してあきらめず登り切ろうとする自らを鼓舞するかなのような力強い声が繰り返し山林に響いたのでした。

9月11日(水)～9月13日(金)の3日間、5年生の子どもたちが福島県南会津郡南会津町館岩地域の豊かな自然の中で、さいたま市立館岩少年自然の家の施設を利用し、自然体験、集団宿泊体験、生活体験を行いました。この自然の教室の趣旨は、豊かな自然の中での自然体験活動や集団宿泊活動等を通して、心身ともに健全な子どもの育成を図ることです。本校の子どもたちだけでなく、さいたま市立学校に通うすべての5年生の子どもたちが館岩での自然体験活動を経験することになっています。



【登山をする5年生の子ども様子】

「館岩少年自然の教室」において、本校の5年生の子どもたちは、主体性、そして創造性を発揮し、登山をはじめ、キャンプファイヤー、源流探検、木材加工、川魚さばきなど様々な充実した活動を経験しました。

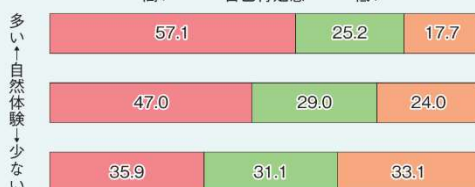
このような大自然の中で、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五つの感覚いわゆる「五感」を働かせることによって、豊かな心をはぐくむことができるといわれています。また、グラフに示されるように、小学生の段階で、自然体験を数多く経験することで、高校生の年代になったとき、自己肯定感、道徳観、正義感などが高い傾向が見られるようになります。すなわち、子どもの頃の自然体験がよりよい成長には欠かせないのです。

本校において、体験を通して一人ひとりの子どもたちのよりよい成長を図るため実施している教育活動はたくさんあります。5年生の自然体験はもちろん、自分が住む地域をめぐる体験、さいたま市内及び埼玉県内の施設等をめぐる校外学習の体験、文化的体験(動物園、博物館、音楽鑑賞など)、子どもたち自らが企画した集会など、子どもたちは、1年生から6年生まで学年によってさまざまな体験的な活動を経験します。この様々な体験を通して、子どもたち一人ひとりが、外向性(自分のことを活発だと思ふ)、精神的な回復力(新しいことに興味をもつ、自分の感情を調整するなど)などの健やかな成長には欠かせない力を身に付けられるといわれています。今後も一人ひとりの子どもたちの健やかな成長を図るため体験的な教育活動を意図的、計画的に実施してまいります。

ご家庭においても、お休みの際には、お子様と体験的なイベントなどに参加してみたいかがでしよう。五感を刺激する様々な体験を通して、お子様のよりよい成長を感じられたらうれしいですね。

自然体験と自己肯定感の関係

高い ← 自己肯定感 → 低い



自然体験と道徳観・正義感の関係

ある ← 道徳観・正義感 → ない



(出典) 国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査(平成26年調査)」(平成28年5月)
※本調査の対象者は、小学4年生～小学6年生、中学2年生、高校2年生である。